

## 「信州つばさプロジェクト SDGs 探究 I（韓国）に参加して」 堀江花音

私は信州つばさプロジェクトの SDGs 探求コースに参加し、韓国に留学に行きました。参加しようと思った理由は、短期留学を通して韓国の文化や価値観を知り、自分の視野を広げるとともに、新しい価値観を否定しない柔軟さを身につけたいと考えたからです。

実際に韓国では新しい文化や価値観にたくさん出会えました。自分の知らなかった世界を知れて、言葉も価値観も違う人とたくさん交流できたことは、すごく価値のある体験でした。

出発当日、成田空港から約 2 時間 30 分のフライトを経て韓国に到着しました。最初に感じたのは、言葉が通じないことへの不安でした。韓国語を勉強してから出発したものの、実際には簡単な買い物さえ聞き慣れない言葉が多く、戸惑ってしまう場面がありました。しかし、現地の方々はとても親切で、分かりやすい単語を選んで話してくださり、現地の方の温かさを感じました。

また、現地の高校を訪問した際には、現地の高校生の積極性に驚きました。たくさん的高校生が声をかけてくれて、私の拙い韓国語も一生懸命理解しようとしてくれて嬉しかったです。また、日本の学校と比べると、先生の呼びかけに対する生徒の反応が非常に活発で、自分から手を挙げて発言する生徒の姿がたくさん見られました。言語や文化の壁を超えた交流はとても深く、同年代とは思えない程の発言力や積極性には多くの学びがありました。

また、今回の短期留学を通して、韓国と日本の文化の違いを細かなところまで実感することができました。

一つ目は、食品ロスに関する価値観の違いです。韓国には歴史的に厳しい時代を経験した背景があり、食に対する喜びやもてなしの気持ちを大切にしている文化が深く根付いていると感じました。食卓には食べきれないほど多くのおかずが並び、食べ終わるとすぐに新しい料理が運ばれてきます。さらに、ほとんどの飲食店では多くの料理がおかわり無料で提供されていました。しかし、その一方で、出された料理を食べきれずに残してしまう場面も多く見られました。かつては食べ残すことが礼儀とされていた時代もあったと聞き、食事を残すことに対して日本ほど強い抵抗がないように感じました。

二つ目は、ゴミ捨て場やトイレの衛生面についてです。韓国では、多くのトイレでトイレットペーパーを流すことができず、使用済みの紙を備え付けのゴミ箱に捨てる方式が一般的でした。そのため、日本と比べると衛生面で気になる場面もありました。また、広蔵市場や明洞などの観光地に設置されたゴミ箱には、観光客のゴミだけでなく家庭ゴミと思われるものまで多く捨てられており、常に大量のゴミが溢れている印象を受けました。こうした経験を通して、日本の公共空間の清潔さを改めて実感しました。

この短期留学を通して、これまで知らなかった文化や価値観、生活環境について多くの学びを得ることができました。現地で出会った高校生とは今でも連絡を取り合っており、国や

言語の違いを越えて新しい友人ができたことは、大きな財産となっています。日韓は歴史的に複雑な関係を抱えている国同士ですが、実際に交流してみると、理解し合えることが想像以上に多いと感じました。現地の高校生が日本に対して前向きな印象を持っていると話してくれたことも心に残っています。文化や価値観を互いに尊重し合うためには、相手を思いやる姿勢と、理解しようとする努力が欠かせないということを実感しました。今回の異文化交流は、自分自身の視野を広げただけでなく、社会における多様性の捉え方について考える貴重な機会となりました。このプロジェクトに参加できたことを、改めて嬉しく思っています。





上田染谷丘高校 1年6組 堀江花音